



# 戦争法案の強行採決は、絶対に許さない!!

## 与党の国会議員に、みんなで抗議のFAXを送ろう!

### ●日本の平和、民主主義の危機です!

戦争法案は、参院特別委で審議が行われています。国会中継を聴いて、首相の答弁にとっても驚きました。野党からの質問に対してはたびたび答弁不能に陥り、「戦闘行為が発生しない区域で」と法案の記述にない、何の担保もない答弁をくり返す。野党の質問には「仮定」として回答しないのに、身内からの「北朝鮮からミサイル攻撃」という仮定の話には喜々として回答する。質問に正面から向き合わず、関係ないことを長々と話す。



議論はかみ合わず、たびたび審議は空転します。その違憲性や矛盾が、国会審議でも次々と明らかになっており、まともに答弁することができないのでしょう。

### ●戦争法案反対の声を届けよう!

今、全国で、世代や立場の違いを超えて様々な人たちが戦争法案反対の声をあげ、行動しています。「教え子を再び戦場に送らない」をスローガンに掲げる私たち全釧路教職員組合は、**抗議FAXの取り組み**を提起しました。

違憲性や危険性が明らかになった戦争法案を絶対に通してはならない!この思いを議員に届けましょう。地元から多数の反対の声が上がってくれば、思いとどまってくれる議員もきっといます。

参議院では**8名の造反で否決が可能**になります。衆議院では**15名の造反で再可決を阻止**できます。これは郵政国会での造反よりもはるかに少数で、世論の力で十分に押し返すことができるのです。

各職場で、地域で、一人でも多くの声を集めましょう。学校のFAXは使用せず、本部に届けてください。道内選出与党議員に、本部から送付します。ひとりでも多くの「造反議員」を誕生させましょう!

**私は  
戦争法案に  
反対します**

北海道

市町村 の有権者より

# 「平和は、平和な心がつくる!」戦争NOを訴え続けよう!!

管内各地で、戦争法案反対の集会はまだまだ続いています。7月23日の駅前行動には、100名もの人が集まりました。厚岸の土曜行動も毎週続いています。各地の集会に多くの組合員も参加し、声をあげ続けています。



7月23日(木)釧路駅前集会

7月18日の駅前宣伝、19日のキャラバン宣伝で力強いアピールをした柴田真規先生のお話には、感動しました。ぜひ紹介したいとお願いをして、その原稿を送っていただきました。皆さんも、各地で行動した様子や感想など、ぜひ送ってください。全釧路情報で紹介します。

安倍首相!

あなたのポスターに刻まれた言葉。「日本を取り戻す」とは、こういうことだったのです。権力者が国民を数の力で、権力でねじ伏せて、再び『戦争のできる国』そういう日本を取り戻す! そのことが、強行採決で明らかになりました。

いつも、あいまいな言葉で、「国民の平和のため」と言い続ける安倍首相。あなたがそう言えば言うほど、あなたの言葉の「矛盾」、「偽り」が明らかになっています。

あなたは「積極的平和主義」と言います。「積極的平和主義」がなぜ、戦争できる国づくりになるのか。この言葉は、もともとそういう意味ではなかったと、詩人のアーサー・ビナードさんは言っています。

「この積極的平和主義という言葉は、50年前からあり、本来の意味は、平和な状態がいつまでも続くように、社会から暴力を取り除き、戦争で暴利をむさぼることを許さない、そういう社会をつくろうという意味だった。しかし、日本ではこの積極的平和主義という言葉はあまり使われず、使われないでいたら、歪曲され、中身が差し替えられ使われている。詐欺師に言葉に乗っ取られたのです。安倍政権の本質は、戦争を商売にしようとする積極的“死の商人”主義です。」と。

今回の強行採決を通して、国民のこの法案に対する理解は、別の意味で確実に進んでいるのではないのでしょうか。その理解とは、「戦争法案はNOだ!」「戦争法案はいやだ!」という理解です。

それでも、安倍首相、あなたは、「今は理解されていなくても、いつかは賛成と理解される。」と言葉を口にします。でも、賛成と理解することができない法案は、いつまでも、理解されることはないのですよ。NO!の数は、確実に増えているのです!

安倍首相!

私たちは、だまされないのです。前回、日本が起こした戦争を、二度と繰り返すことは「ぜったいにしてはいけません!」「ぜったいにさせない!」

それは、日本という国に生まれた私たち日本人は、『戦後70年間、平和憲法とともに育ってきた国民』だからです。私たちは、ここにこそ、誇りを感じているのです。

武力による問題の解決を認めることは、決してできません。

軍事力を強めて

たくさんの人を殺し

他国のものを奪い

富を得る

意見が違えば殺し合う

「我が国こそが、正義だ!」と言って

殺し合う

そんな日本、そんな時代に  
戻ってはいけません

安倍首相!

人として、守り、そして、行われなければならない大事な道は“平和”です。

そして、それは日本だけのものではありません。どこの国にも、たくさんの未来のある子どもたちがいます。どこの国にも、大事な家族がいます。愛する人がいます。そして、世界中の人々が、平和を望んで暮らしているのです。

この法案に賛成をした安倍政権の議員たちは、決して戦地には行かないのでしょうか。いつも自分たちは安全な場所において、そして、私たちの大事な大事な子どもたちに命令するのです。

「国家を愛せ!」

「国家のために、戦え!」

「国家のために、死ね!」

「たくさんの人を、殺せ!」と。

私は、今回賛成した議員の名前と、顔写真と、政党名を載せて、いろんな場所に貼り出したい思いがあります。「戦争、YES!」の判断をした人たちです。責任を持っていただきたい。真っ先に戦地に出向いて、自衛隊の方々の前に立ち、守っていただきたい。

安倍首相!

あなたに、人としての心があるのであれば、私たちの声を、雑音としてではなく、言葉として耳を傾け、心で聴いてください。国民の声は、あなたに届かないのであれば、日本の首相として相応しくありません。やめてください。

この戦争法案は、廃案です。廃案になるまで、声をあげ、行動を続けます。私たちには、権力はありません。でも、一人ひとりでは微力でも、一人ひとりの声を、英知を結集して、たたかいます。

最後になります。

子どもたちは、今を、一生懸命生きています。

時にはもがきながらも、純粋に前に進もうと生きています。子どもたちが、スポーツ、勉強、文化活動、友人との語り合いなどができるのも、平和だからこそです。

大人も、たいへんなこともあるけれど、こうして日常をくらしてられるのも、平和の国に生まれたからです。

「平和は、平和な心がつくる」と言います。

ぜひ、今、一人でも多く、「戦争できる国づくりを進める」安倍政権に、NO!という声を届けて、子どもたちに“平和な国”をつなげていきましょう。